令和６年６月
愛知県東部家畜保健衛生所

県内の鶏伝染性気管支炎（IB）発生状況

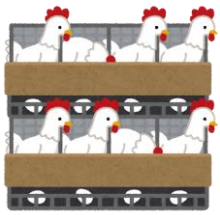
IBは、毎年全国的に発生があり、愛知県でも、下表のとおり複数の地域で確認されています。**採卵鶏、肉用鶏のいずれでも確認**されていますが、採卵育成鶏や、肉用鶏など、**日齢の若い鶏での確認がほとんど**です。また、確認ができた事例だけでも、JPⅠ、Ⅱ、Ⅲのいずれの遺伝子型も検出されています。

症状は、呼吸器症状、腎炎、産卵率低下、下痢など多彩で、これまでの県内の事例では、死亡羽数の増加をきっかけに確認されることが多くなっています。

愛知県及び全国のIB発生状況（2018～2024年）

	愛知県		全国（戸数）
	戸数	発生地区（遺伝子型・飼育用途）	
2018年	3	西三河（JPⅢ、JPⅠ・肉用）、東三河（JPⅡ・肉用）	27
2019年	0	―	15
2020年	4	知多（JPⅠ・採卵育成）、豊田加茂（肉用）	25
2021年	2	東三河（JPⅡ・肉用）	28
2022年	0	―	19
2023年	2	西三河（JPⅠ・採卵育成）、東三河（JPⅠ・採卵育成）	24
2024年（5月末まで）	2	知多（採卵育成）、西三河（JPⅠ・採卵育成）	―
合計	13		138

IBは、ワクチン接種により防御を行いますが、野外株には多くの種類があります。ワクチンを接種していても、使用しているワクチンと異なる野外株ウイルスに感染すると、防御できない場合※があります。したがって、**農場や家きん舎に新たなIBウイルス株を入れないよう、専用衣服や靴への着替え・履き替え、車両消毒等、日頃の飼養衛生管理も重要になります**。

※IBは、異なる株間でも、抗体が交差するため、接種ワクチン株と野外感染株が異なる場合でも、全く防御ができないわけではありません。

鶏にいつもと違う様子・死亡羽数の増加が確認されましたら、獣医師の先生や家畜保健衛生所までご連絡ください。